

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会  
杵島農業振興センター

「稲作情報（第11号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第11号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。

1. 気象概況

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R6 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R6 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R6 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R6 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R6 (hr)	平年比 (%)
7月	1	25.4	27.6	2.2	29.2	30.6	1.4	22.4	25.1	2.7	90.3	147.5	163.3	16.3	21.4	131.3
	2	26.1	29.3	3.2	30.1	32.4	2.3	23.0	26.9	3.9	83.2	2.5	3.0	20.3	33.5	165.0
	3	26.7	24.9	-1.8	30.9	27.5	-3.4	23.5	22.8	-0.7	61.9	195.5	315.8	24.2	4.8	19.8
	4	27.3			31.8			23.9			43.1			28.0		
	5	27.7			32.5			24.2			36.2			31.4		
	6	28.1			33.0			24.5			39.2			41.0		

○7月3半旬の平均気温は、平年に比べて1.8°Cほど低く推移した。また、まとまった降雨により降水量は平年比316%、日照時間は平年比20%となった。

2. 水稻情報田の生育状況（調査日：7月18日）

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概 要
さがびより 6/20 移植 武雄市橋町 ※2	本年値	55.1	363	9.3	44.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>草丈は平年より高く</li> <li>茎数は平年より多い。</li> <li>主稈出葉数は平年より0.3葉多い。</li> <li>葉色は濃く、SPADは平年より1.7高い</li> </ul>
	前年値	45.5	290	8.9	41.3	
	平年値 ※2	43.9	318	9.0	42.4	
	平年比	125	114	0.3	1.7	

※1 さがびよりの平年値はH21～R5の平均値

※2 本年移植日6月20日 平年移植日6月22日

3. 管内の生育状況（7月18日時点）

- 七タコシヒカリ：現在、糊熟期～黄熟期である。出穂盛期は6月26日～28日となり、積算温度による刈取り予想は7月28日～8月2日頃となる。
- 普通期水稻：分けつ盛期～穂首分化期前である。  
日照時間が極端に短く、降水量も多かったことから、草丈は急激に伸長した。スクミリンゴガイの食害や土壌の強還元の影響による障害、枯死が見受けられる。

4. 今後の管理

1) 七タコシヒカリ

(1) 水管理

- 「コシヒカリ」は、糊熟期～黄熟期を迎えている。なお、積算温度による刈取り積算目安表は別紙参照。
- 水管理は、根への酸素供給を図るためにも常時湛水するのではなく間断灌水（潤土管理）を行う。

ただし、玄米の品質低下を避けるため、土壌表面が白乾しないように、好天が続く場合は必ず走り水を行う。また、早期の落水は粒の充実不足、品質低下につながるため、間もなく収穫時期を迎えるが、収穫7日前ごろまでは間断灌水を続ける。

## 2) 普通期水稻

《共通》

- ・移植後、気温は高く推移したことで雑草発生が早く、場合によっては除草剤の効果が十分発揮できていない圃場も確認されている。特に「ホタルイ」の発生を確認する。その場合、中後期除草剤の散布も視野に入れる（剤によっては収穫前日数に留意して使用する）
- ・移植後の曇天多雨の影響を受けて、初期分けつが確保できず茎数不足の圃場も見られるが、中干し作業は、移植後35日～40日まで実施する（茎数が少なすぎる場合は軽めに行う）。中干しの草丈の目安は、「夢しずく」が45～55cm、「ヒノヒカリ」は40～50cmの間が目安である。（茎数の多少はあるが、この時期以降の分けつ茎は穂にならないため。）  
いもち病が多発している圃場では、強い中干しは避けるようにする。なお、『中干し作業の効果と時期』については、稲作情報10号参照。

### ①夢しずく

- ・間もなく幼穂形成始期となるため、中干しを収量する。
- ・6月中旬に移植された「夢しずく」は、まもなく幼穂形成始期を迎え穂肥施用時期となる。穂肥の施用に際しては、下記の穂肥診断基準に基づいて適期適量施用する。
- ・「夢しずく」は、幼穂が1～2mmになるまでは伸長が緩慢であるが、3mm以上になると急激に伸長する。穂肥施用時期が遅れないように注意する。

【表1 夢しずくの穂肥診断基準】

草丈 cm 幼穂形成始期時	葉 色		穂肥施用時期		
	群 落	SPAD	出穂前	幼穂長	穂肥施用量 (N成分:kg/10a)
7.3cm 以下	淡い	3.0 以下	20～22 日	1mm	2.0kg/10a
	標準	3.0～3.5	18～20 日	2mm	1.5kg/10a
	濃い	3.8 以上	穂肥は施用しない		
7.3cm ～ 7.9cm	標準	3.0～3.5	18～20 日	2mm	1.0kg/10a
	濃い	3.6 以上	穂肥は施用しない		
8.0cm 以上	穂肥は施用しない				

### ②ヒノヒカリ、さがびより

- ・中干し作業の時期をむかえる。なお、中干し作業に移行する際の草丈の目安は、「ヒノヒカリ」及び「さがびより」は40～50cmの間である。  
中干し期間は5～7日天候や土壌の種類、漏水の程度などによって変わるが、圃場の硬さの目安は軽く足跡が付く程度で、小さなヒビが入るくらい。



#### 中干し（黒乾状態）

土壌表面に小さなヒビが入るくらい  
また、歩いて足跡が軽がつくが、抵抗なく歩ける硬さ。

### 3) 病害虫の発生状況

#### ①いもち病

##### 【普通期水稻】

- ・圃場内に放置されている補植苗は「いもち病」や「ごま葉枯病」の温床になるため、すみやかに除去する。
- ・葉いもちの発生に注意して観察し、進展型病斑が認められれば早急に臨機防除を実施する。その場合、オリブライト粒剤等を使用する（ただし農薬摘要に留意する）
- ・窒素過多は発生を助長するので、適切な肥培管理を行なう。
- ・**葉いもちの発生がみられる圃場では、穂ばらみ期の防除を徹底する**とともに、発生が多いと予想される場合（上位3葉に葉いもちの病斑を確認した時）には穂揃い期にも防除を行う。  
薬剤の使用にあたっては、使用時期や回数等の農薬の登録情報に注意する。





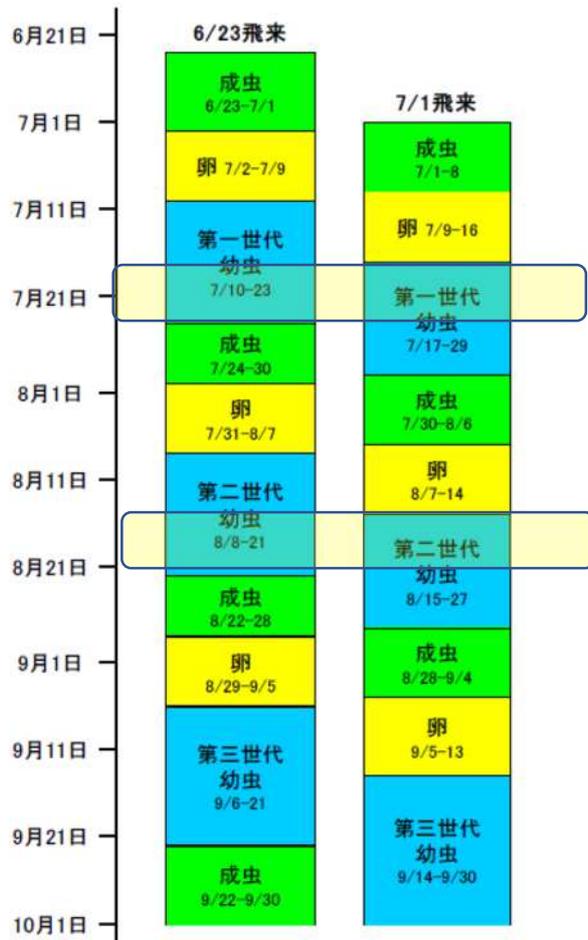
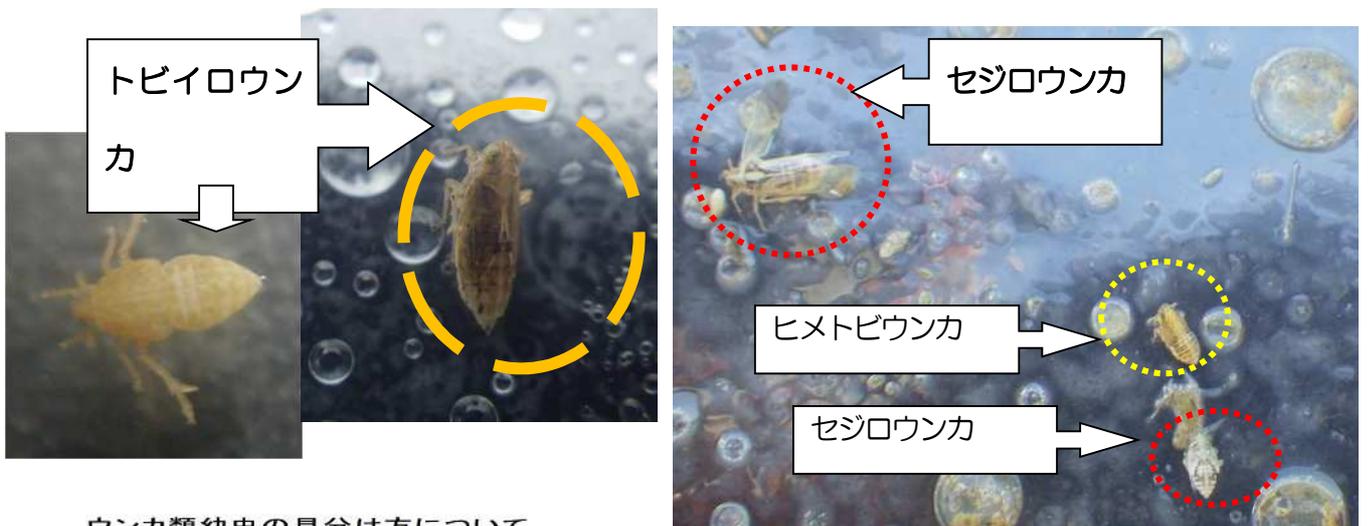


図1 トビロウンカ各世代の発生予測 (第1版、2024年7月4日作成)

- 6月23日～24日頃(図では6月23日)、7月1日～2日(図では7月1日)の飛来虫を起点とし、トビロウンカの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ(7月4日以降は平年値)に基づき作成した。
- 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
- 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。



ウンカ類幼虫の見分け方について

	若齢幼虫の体色	中～老齢幼虫の体色	水面での後脚の出し方
セジロウンカ	白っぽい	灰白の斑紋	○ : 真横
トビロウンカ	白っぽい	薄茶か茶褐色	○ : 真横～やや斜め後ろ
ヒメトビウンカ	黄褐色	淡黄色か薄茶か茶褐色 (体側の色が濃い場合あり)	○ : 斜め後ろ

令和6年産「七タコシヒカリ」収穫適期予想表（アメダス観測地，白石）

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会作物部会  
杵島農業改良振興センター  
令和6年7月18日現在

月	日	平均気温		出穂期				
		平年	R6	6/24	6/26	6/28	6/30	7/2
6	24	24.0	24.1	出穂期				
	25	24.2	23.4	23				
	26	24.3	22.1	46	出穂期			
	27	24.4	22.5	68	23			
	28	24.6	24.3	92	47	出穂期		
	29	24.8	24.8	117	72	25		
7	30	24.9	28.2	145	100	53	出穂期	
	1	25.1	25.6	171	125	79	26	
	2	25.2	27.4	198	153	106	53	出穂期
	3	25.4	28.9	227	182	135	82	29
	4	25.5	28.1	255	210	163	110	57
	5	25.7	28.1	283	238	191	138	85
	6	25.8	29.4	313	267	221	168	115
	7	25.9	29.5	342	297	250	197	144
	8	26.1	29.6	372	326	280	227	174
	9	26.2	29.6	402	356	309	256	203
	10	26.3	28.4	430	384	338	285	232
	11	26.5	24.9	455	409	363	310	257
	12	26.6	25.5	480	435	388	335	282
	13	26.7	25.6	506	460	414	361	308
	14	26.8	24.0	530	484	438	385	332
	15	26.9	24.5	554	509	462	409	356
	16	27.1	25.9	580	535	488	435	382
	17	27.2	27.6	608	562	516	463	410
	18	27.3		635	590	543	490	437
	19	27.4		663	617	570	517	464
	20	27.5		690	645	598	545	492
	21	27.6		718	672	625	572	519
	22	27.7		745	700	653	600	547
	23	27.7		773	728	681	628	575
	24	27.8		801	755	709	656	603
	25	27.9		829	783	737	684	631
	26	27.9		857	811	764	711	658
	27	28.0		885	839	792	739	686
	28	28.1		913	867	821	768	715
	29	28.1		941	895	849	796	743
	30	28.1		969	924	877	824	771
31	28.2		997	952	905	852	799	
8	1	28.2		1025	980	933	880	827
	2	28.2		1054	1008	961	908	855
	3	28.3		1082	1036	990	937	884
	4	28.3		1110	1065	1018	965	912
	5	28.3				1046	993	940
	6	28.3				1075	1022	969
	7	28.3					1050	997
	8	28.2						1025
	9	28.2						
	10	28.2						

4月6日移植一出穂期6月28日頃

◎ コシヒカリ収穫適期の目安

● 積算気温による目安

最低 850℃

~

最高 930℃



< 収穫のポイント >

○ 積算表はあくまで目安です。

○ 収穫は、圃場での熟れ具合を確認したうえで、作業日を決定してください。

○ 早期落水すると充実不足による「ヤセ米」や、「屑米」、「死米」が発生し、品質低下を招くため、収穫1週間前までは必ず間断灌水を実施し、根の活力維持に努めてください。

○ 麦などの異種穀粒や異物が混入しないよう、収穫作業前には、必ずコンバインや乾燥機の清掃点検を実施してください。

○ 「七タコシヒカリ」の収穫は、高温条件での作業となり、ヤケ米発生が懸念されるため、一次堆積時間（トラックやコンテナでの堆積時間）はなるべく長くないよう、ついで作業を進め、収穫された籾は速やかに通風・乾燥してください。



< 収穫適期の目安 >

・籾水分27~28%（穂軸の先端(穂先)から1~2cmが枯れ、穂元の青籾が5~7粒残っている状態で、籾をツメで押してもつぶれなくなった時。籾水分が25%未満(積算気温で1,000度以上)になると刈遅れによる品質低下が懸念されます)

・収穫時期の気温が高い「七タコシヒカリ」では、普通期水稲よりも籾水分の低下が早く、刈遅れによる品質低下が懸念されるため、収穫前は圃場での籾の籾水分の推移を注視しながら、収穫適期を判断してください。

・早刈りすると「青未熟粒」や「死米」の発生による品質低下だけでなく収量も低下し、また、遅刈りすると「胴割米」や「茶米」等の発生による品質低下を招きます。高い品質と収量を確保するため、適期収穫に努めてください。

#### 4. 大豆の管理について

- 収量・品質を確保するには、播種時期にあった苗立ちを確保することが最も重要となる。  
間もなく、梅雨明けを迎えるので、乾燥しすぎないうちに播種を行う。

##### (1) 梅雨の間の播種対策

- ①トラクタで耕起可能な状態になれば直ちに耕起し播種を行う。
- ②天候が変わりやすい場合は、荒耕起を行わず、不耕起播種や部分浅耕播種技術、逆転ロータリを用いた一工程播種等技術の積極的な活用や、組み作業等による効率的で、迅速な播種に努める。
- ③一般に晴天が続く場合は、除草や碎土のための荒耕起後に耕起・播種（2工程）する。  
**※播種後、大雨が予想される場合は播種を行わない。大豆は播種後2日間の酸素要求度が非常に高いため、播種後2日間は降雨により浸水しないことが苗立確保のポイントとなることを留意する。**

##### (2) 梅雨明け後の播種対策

- ①トラクタで耕起できる程度に圃場が乾いたら、耕起の上、直ち（土壌水分が保持されているうちに）に播種する（可能であれば午後から耕起し、夕方播種するようにする。梅雨明け後、晴天が続くようだと土壌が過乾燥となり、発芽率が低下する。）。極端な浅播きは避ける。
- ②梅雨明け後速やかに出芽しない場合は、種子の活力低下と高温障害により、土壌中で種子が腐敗しやすく、発芽率が劣りやすいため、キヒゲン等の種子粉衣を必ず行う。

##### (3) 共通対策

- ①播種後降雨の恐れがある場合は、覆土は2cm程度に浅くし、播種後の鎮圧は行わない。また降雨後種子が水没しないよう、平播きにせず畦立てを行い、畦溝が排水路につながるよう明渠（作溝）を施工する。
- ②播種後、好天が続くと思われる時の覆土は、碎土率を高め4cm程度に厚めにし、鎮圧を行う。
- ③播種期別の播種量は下記のとおりであるが、碎土率によっては発芽率が劣るので、播種量を多くする等の対策を講じる。

(播種期別、播種量の目安)

播種期 (月/日)	栽植本数 (m <sup>2</sup> あたり)	栽植本数 条間×株間×1株本数	播種量目安 (kg/10a)
7/1~7/5	10本	75cm×25cm×2本	3.2kg
7/6~7/15	13本	75cm×20cm×2本	4.0kg
7/16~7/25	18本	75cm×15cm×2本	5.3kg

令和6年産 作物作付期間気象図  
アメダス観測値(白石)

